



発行所 財団法人兵庫県消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 岸谷義雄 定価 1部44円 (購読料は分担金を含む) 題字 井戸知事

「消したかな」 あなたを守る 合言葉

次の世代に「伝える」「備える」...

ひょうご安全の日をつどい開催

平成二十三年一月一七日にひょうご安全の日をつどいとして「一・一七 ひょうごメモリアルウォーク二〇二二」、「一・一七のつどい」、「交流ひろば・ステージ」、「防災訓練」が行われました。

震災一六年を迎える被災地において、阪神・淡路大震災の経験をいつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを推進するため、「ひょうご安全の日」である平成二十三年一月一七日に「伝える」「備える」をテーマに「ひょうご安全の日をつどい」が実施されました。

①「一・一七ひょうごメモリアルウォーク」

総勢三、二〇〇人の参加者が、震災当時に思いを馳せ、それぞれ東西一五km（東：西宮市役所、



1.17 ひょうごメモリアルウォーク



1.17 のつどい

西：須磨海浜公園）、一〇km（東：芦屋市川西運動場、西：県立文化体育館）、西五km（神戸市立中央体育館、東二km（王子公園）の六カ所からHAT神戸まで歩きました。

②「一・一七のつどい」 阪神・淡路大震災の犠牲となられた方々への哀悼の誠を捧げるとともに、安全・安心な社会づくりに向けて歩む決意について国内外や次世代に発信する「一・一七のつどい」がHAT神戸（人と防災未来センター）慰霊のモニュメント前）で開催されました。 当日は厳しい寒さにもかかわらず二、〇〇〇人もの参加者が犠牲となられた方々へ追悼の誠を捧げられました。また、県協会からも岸谷協会長がつどいに出席し、献花を行いました。

次第

- ・ 献奏曲 (県立西宮高等学校音楽科)
- ・ 開会のことば (県議会議長)
- ・ 主催者代表挨拶 (知事)
- ・ 県民のことば (新成人)
- ・ 献奏曲 (なぎさ小学校)
- ・ 「一・一七のつどい安全の日宣言」(県民会議企画委員長)
- ・ 献花 ※一七時まで

③交流広場・ステージ

なぎさ公園では、関係機関やNPO、ボランティアグループ等がブースを設置し、活動展示や炊き出しを行い、県民の防火意識の向上や交流を図りました。また、ステージでは、県民グループや学生等による発表会が行われ、参加者の多くが震災

1・17ひょうご安全の日宣言

阪神・淡路大震災から16年経った 私たちは日本と世界の多くの人たちに 地震の被害に遭う前に 震災の教訓を知ってもらいたい 生かしてもらいたいと願って 発信し続けてきた

昨年一月にハイチで大地震があった 人口250万人の首都ポルトー・フランスなどで 22万人以上が犠牲になった 復旧・復興事業は難渋し 感染症も広がった

21世紀に入って 巨大災害の発生がとくに目立つ 犠牲者が1万人を超えた災害が この10年間で7回も起こった 毎年のように 世界中で多くの人たちが犠牲になっている やはり 震災の教訓がまだまだ伝え 生かされていないのだ

チリ津波災害から50年を迎え またチリ沖地震津波が来襲した 幸い 人は亡くならなかったけれど水産施設に大きな被害が出た 日頃から津波に備えた対策がなかったことが原因だ しかも 避難勧告や指示に従った人はたった3.8%にとどまった 50年前の教訓が伝え 生かされていないのだ

誰でも地震や風水害に遭遇する 私たちが持っている災害の教訓をもっと活用しよう 日々の生活の中でもっと備えよう それを自分から 家庭から 学校から 職場から 地域から発信したい

伝えよう もっと伝えよう阪神・淡路大震災の教訓を 備えよう もっと備えよう 減災社会を目指して 震災の教訓は すべての災害に通じる知恵だから

2011年1月17日 ひょうご安全の日推進県民会議



交流ひろば・ステージ

④防災訓練

初期消火訓練や耐熱訓練等のほか、海上での要救助者救助訓練を実施し、県民参加による防災機関と連携した実践的な「防災訓練」が行われました。

兵庫県が消防団啓発の広報を実施

兵庫県消防課

兵庫県消防課は、消防団員入団促進キャンペーン期間にあわせ、県の特設広報媒体を活用し、次のとおり消防団の普及啓発事業を実施しました。

②ラジオ関西「兵庫県からのお知らせ」(毎週月・水・金曜日七時一四分～一七七分)

①Kiss-FM KOBЕ「ひょうごホット・インフォメーション」(放送日時 毎週火・木曜日一七時二五分～二八分)

③ラジオ関西「防災ホットライン」(放送日時 毎月一七日、放送時間三分)

若年層や女性層をターゲットに、暮らしに役立つ情報や県政トピックスなどをお知らせする番組 実績：平成二十三年一月一日放

兵庫県災害対策センター担当者主演による防災情報放送予定日：平成二十三年三月一七日



県庁駅前広報ショーウィンドー

平成二十三年度 若手消防団員意見交換会実施

兵庫県消防協会

県消防協会では、団員から分団長に在職する四〇歳未満の消防団員の方に参加を募り、「若手消防団員意見交換会」を毎年一月～三月の間に県下九地区で実施しています。

この事業は、若手消防団員が日頃から消防団活動を通じて感じたことや意見等を自由に述べることが出来る機会を提供するとともに、各地区の消防団の情報共有を促進し、県下の消防団活動の活性化を目的として実施しているものです。

また、各会場で出た意見をテーマ別に要約したものを報告書にし、各消防団に配布する予定にしております。県協会のホームページにおいても、過去二年分の報告書を閲覧することが出来ます。

服、消防団パネル、各種装備品等を展示し、消防団についての普及啓発を図りました。 展示期間：平成二十三年一月二八日～二月七日

消防団の充実強化についての 検討会報告書の概要について

消防庁防災課

先月号でお知らせをしました「消防団の充実強化についての検討会」報告書についてその概要を紹介いたします。

一 はじめに

消防団は、市町村の消防機関であり、その構成員である消防団員は、他に本業を持ちながらも、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員として、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき、多方面にわたる消防・防災活動を行っております。

消防庁では、消防団活動の活性化を通じて、地域の安全・安心が推進されることを目的として「消防団の充実強化についての検討会」(座長：室崎益輝・関西学院大学総合政策学部教授)を平成二二年六月に設置しました。このたび、本検討会により報告書が取りまとめられましたので、その主な概要を紹介いたします。

二 報告書の主な概要について

(1)消防団の役割
常備消防の整備が進み、特に都市部は、消火については消防団の役割は限られると思われがちですが、消防団は常備消防との連携のもと、消防・防災活動の一躍を幅広く担っており、また、大規模災害の際には、消防団による地域の即応体制が極めて重要です。

我が国では、東海地震、東南会南海地震や首都直下型地震などの大規模災害の発生が危惧されておられ、大規模災害に備える

ためには、要員動員力、即時対応力、地域密着性の観点から消防団の充実強化は不可欠です。

また、大規模災害時以外の活動としても、水防を始め、防災教育、防災訪問や応急救護など、消防団の果たす役割は多様で大きいものがあります。

(2)常備消防・自主防災組織等との連携

災害時に効果的に地域の防災力を一体として発揮するためには、その担い手である市町村の消防機関としての常備消防、消防団及び自主的な組織である自主防災組織の三者の効果的な連携が重要です。

特に、地震などの大規模災害時や中山間地、離島等での災害の場合、消防団からの常備消防への情報伝達は不可欠です。

消防団と自主防災組織等の連携に当たっては、日常の消火訓練はもとより、災害時を想定した救助・救出等についても、自主防災組織等が消防団から助言を受けながら知識、技術を身に付け、ともに地域防災を担う集団として、災害発生時に自主防災組織等のマンパワーと消防団の専門知識・技術を活用し、効果的な防災活動が行えるよう努めることが必要です。

(3)消防団員の活動環境の整備等

①被雇用者団員等の活動環境の整備
消防団員の就業形態は大きく変化してきており、全体に占める被雇用者の割合は七割を超える現状の中で、勤務時間中の活

動について、事業所に理解を得る必要があります。
企業側のメリットを大きくするような消防団協力事業所制度の充実を検討することも有効と考えられます。

また、被雇用者の入団希望者に対し、消防団の訓練及び諸行事の年間スケジュールをあらかじめ示すなどにより、必要以上に負担を強いることがないよう工夫する必要があります。

(4)女性・学生団員の入団促進策

平成二二年四月一日現在では、全国の女性消防団員は一九、〇四三人で前年度に比べ約一、二〇〇人増えています。全体の約二%であり、また、女性消防団員がいる消防団は一、一九四団で全体の五二.五%となっています。

消防団の役割として、ますます重要となつてくると思われる応急手当の普及や子ども達への防災教育等、女性の特性を活かして活躍できる場が多くあることや、女性も男性と同様に活動している事例があることを、広く広報することが必要です。

また、平成二二年四月一日現在では、大学生等の消防団員数は一、八〇四人であり、人数としては多くはありませんが、消防団員の平均年齢が、平成二二年四月一日現在三八.八歳となるなど、上昇が続いていること

(5)将来の消防団員の地域防災を担う人材の育成

ヨーロッパ各国では、青少年の消防活動が活発に行われており、我が国においても、将来の消防団員等の地域防災の担い手を子どもの頃から一貫として養成していくことが重要です。

特に、中学生・高校生については、将来の地域防災の担い手として、また現時点においても、ある程度の体力を有していることから、防災活動に積極的に参加し、地域防災力の向上に寄与する主体として活躍することが期待されます。

また、消防団は防災に関し地域コミュニティの中核的存在であることから、青少年に対する防災教育の推進に当たっては、常備消防はもとより、学校、自治会、自主防災組織、婦人(女性)防火クラブ、民生委員などと連携協力して、積極的に支援していくことが望まれます。

消防団の活動内容、必要生等については、一般の人々、特に都市部の新しい住民にあまり知られていないことを踏まえ、消防団の認知度をさらに高めていくことが非常に重要です。

(6)地域住民への広報

なお、ホームページなどのあらゆる広報媒体や機会を使って、また、マスメディアとも連

携し、消防団の活動が住民により浸透するよう心がける必要があります。特に大規模地震や集中豪雨等の災害対応などにおける消防団の必要性について、広

く住民に広報し理解を得ることが必要です。

報告書の全文は消防庁のホームページからご覧いただけます。

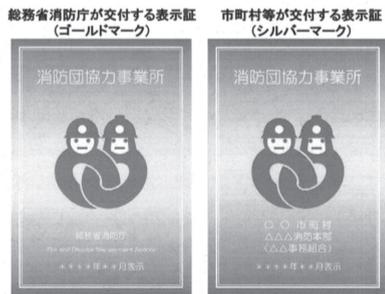
http://www.fdma.go.jp/neutral/topics/2/221210_1houdou02_houdoushiryou.pdf

URL

消防団協力事業所表示制度等

資料 4

事業所として消防団活動に協力することが、その地域に対する社会貢献及び社会責任として認められ、当該事業所の信頼性の向上につながることに、地域における防災体制が一層充実する仕組み。



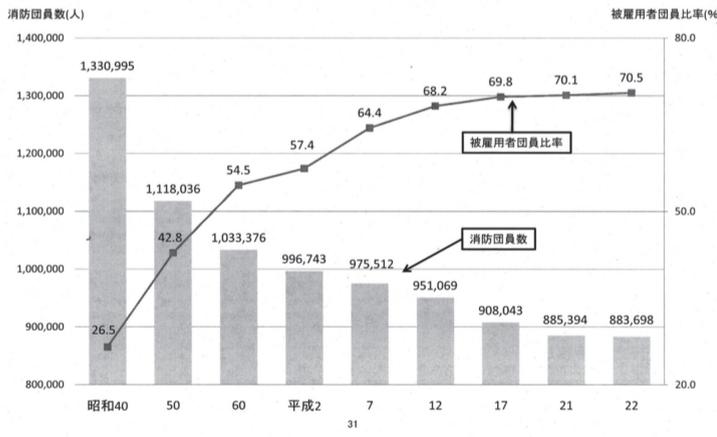
消防団協力事業所表示制度導入状況等
(平成22年10月1日現在)

- 表示制度を導入している市町村 777
 - うち、表示証を交付済の市町村 514
 - 表示証を未交付の市町村 263
- 消防団協力事業所数
 - 市町村協力事業所数 6,228
 - 総務省消防庁協力事業所数 187

〔消防団協力事業所表示制度〕の運用開始日!
(総務省消防庁：平成19年1月1日～ / 市町村等：市町村等が定める日～)

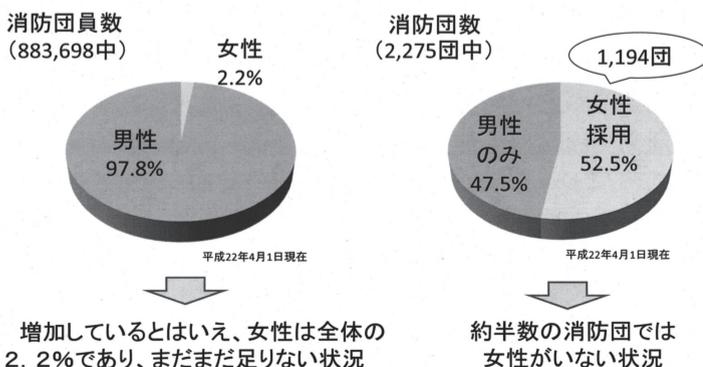
消防団員数の推移

資料 2



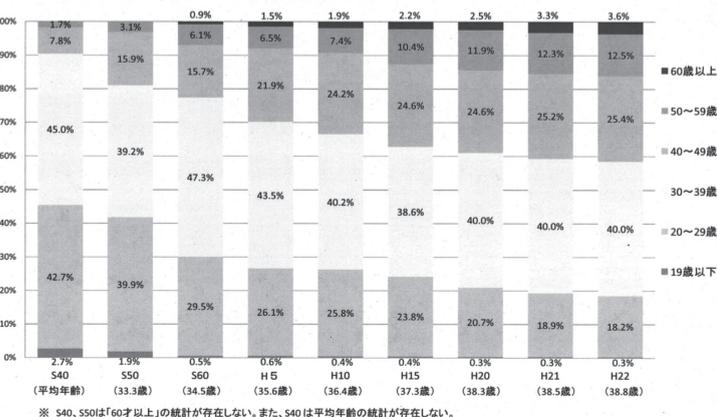
女性消防団員数の割合

資料 12



消防団員の年齢構成比率の推移

資料 3



わがまちの団長さん

174

団員の安心安全のために

加東市消防団長

常峰 登



加東市七五分団二二五五人の団員を束ねるのが、わが常峰団長です。

常峰団長は、昭和五七年に二四歳で入団され、昨年四月から団長に就任されました。

家業は、屋根瓦の施工店を経営されており、腕の良さ与人柄で地元はもとより県内一円に、手広く商われています。

団長は、多彩な趣味をお持ちですが、特に太鼓の腕前は秀逸で地元和太鼓「水龍会」の会員として、昭和五六年に同会が結成されて以来のメンバーです。

和太鼓の魅力をお聞きすると、「腹に響く音とリズム、バチを通して伝わってくる感触、太鼓を打っていると気分爽快になり、仕事の疲れも吹っ飛びます。」とのこと。

消防団活動の活力の根源になっているようです。

いざ、火災や水害が発生すると遠い仕事先からも駆けつけて、陣頭指揮をとられるとともに、活動する団員の安全管理にも気遣いを絶やさ



和太鼓を演奏する常峰団長

れず、団員からの人望も厚い方です。

当支部でも現場活動での事故やケガが少なからず発生していることから、対応策の一つとして、公務災害補償等共済基金より講師の招へいを発案され、昨年、全分団長を対象に安全管理セミナーを開催しました。

「地方自治体の安全安心の要

消防団今昔

76

未だ現役

姫路市家島町消防団長

上西 一夫



姫路市家島町は、姫路市街から南西約一八キロメートルの播磨灘に浮かぶ大小四〇余りの島々で構成されています。

家島町消防団は、昭和二二年九月に警防団から消防団へと組織変更され、平成一三年に現在の一本部四分団定員一七〇名体制で島の消防を一手に担ってま

いりました。平成一八年に姫路市と合併し、姫路市家島町消防団となりましたが、合併後も離島という地理的条件により、島民の協力のもと、地域一丸となり自己完結型の活動で対応しています。

そんな中で三〇年間未だに現役として活躍しているのが、手引き動力ポンプです。昭和五七年に最新鋭手引きポンプ車として配備されてから現在に至るまで、最前線で大活躍しており、私も操作していました。製造会社

社に伺ったところ、「一〇台ほど製造したが、現役で稼働しているのは家島町にある二台だけではないか」とのことです。

今年四月から本島と坊勢島に消防出張所ができ、常備消防が



手引き動力ポンプ

発足しますが、消防車両が入れない狭隘路が多く、他地域からの応援が難しいことには変わりありません。今後も手引き動力ポンプとともに、「自分たちの島は自分たちで守る」をスローガンに、島民一致団結して精進していく所存であります。

地区通信

秋季火災予防運動における消防団広報活動

高砂市消防団

高砂市は兵庫県の中南部、播磨平野に位置し、北は遠く中国山脈の支流を仰ぎ、南は瀬戸内海播磨灘に臨んでいます。市の東端を加古川の清流が南北に走り、その豊かな水利は優れた景観、肥沃な土地となって市民生活の大きな根拠となっています。

高砂市消防団は、一部七分団で構成され団長以下六七五名の団員が一致団結して地域と密着した地域防災の担い手として幅広く活動しています。

その中で、消防団活動を広く市民に知ってもらうため、一月一三日(土)に高砂市内の商業施設で実施された高砂市消防本部主催である秋季火災予防運動の防災イベントに高砂市消防団として初めて参加しました。

防災イベントでの高砂市消防団としての活動は資機材搭載型車両の展示、消防本部と合同で消

となっている団員が、現場活動で負傷することは、あってはならないこと。団員の安全安心を

守ることが私たち団幹部の務めです。」と熱く語られています。



住宅用火災警報器アンケート

火器体験コーナーを設け、来場者に消火器の取扱い説明の実施及び住宅用火災警報器の早期設置に対する理解を深めるため、アンケート調査を行いました。

今回の防災イベントには団長自ら参加され来場された地域住民に、現在の消防団活動及び消防団の現況装備等を知って頂くために熱心に説明されておりました。説明を受けられた多くの市民の方に、火災現場での活動はもとより、火災現場以外での消防団の活動を知って頂けたと

に触れられた事が無い方が以外に多く、積極的に消防団員の説明に耳を傾け、真剣に取組んでいました。今回のイベント参加は、高砂市消防団を知ってもらうために非常に有効であったと思っております。



救助資機材搭載型車両展示

われら若手消防団員

36

「自分たちで守る」の心構えで

宍粟市消防団山崎支団

第三機動分団

松尾 尚賢



私は大学を卒業後、宍粟市役所に勤務するのを機に、生まれ育った宍粟に帰ることになり、そこで職場の先輩方から熱心な勧誘を受け、入団することとなりました。

私が所属している宍粟市消防

山崎支団第三機動分団は旧山崎町全域を活動範囲としており、山崎町で火災が発生したときは最前線で活動する分団です。

入団後、何回か火災による出勤機会がありました。いつもはおもしろく楽しい分団の先輩方も、この時は、サイレンを鳴らしての緊急走行も慌てずに安全に運転され、現場では燃え上がる炎に臆することなく、水源確保、ホース延長、素早い消火活動と、また団員に次々と指示されている姿を見て、さすがだな

格好良いなと感じ尊敬しています。そして、この分団に入団して良かったと思えました。

私は入団して一年と経っていないので、火災出動の機会も少

なく、現場では後方支援の活動が多く、団員としてはまだまだ半人前ですが、来年度の地区操法大会に向け、消防器具の扱い方等を学び、一人前の消防団員として活動していきたい、そして、尊敬する先輩方に一歩でも近づきたいと思っています。

平成二一年八月、宍粟市は台風九号により家屋、道路等に甚大な被害を受け、現在も復旧活動が行われています。今後もこのような災害に対応できるように日頃から、防災・防火活動を入念に行い、「自分たちの町は自分たちで守る。」という心構えで危機管理の向上、住みよい街づくりに貢献していきたいと思

故郷を歩く

自然と歴史の散歩道「神出」

神戸市西消防団神出支団 副支団長 佐伯 尚

神出町は、雌岡山・雄岡山を中心に約二〇kmの広大な地域に約八、〇〇〇人が住み、石器時代の遺跡や多数の窯跡が多数あり古くから文化の栄えた農村地域。地形的に水に恵まれず、溜池が水利の要。近年、芋掘り・葡萄狩り・なし狩りの観光農業、また明石海峡大橋が展望できる雌岡山等が、レジャーや憩いの場。完成したほ場整備、国道一七五号線のバイパスの一部完成等により地域環境が変貌中。「神代より開けし田畑、改良の偉業成したり双嶺乃郷」(ほ場整備記念碑に貝原前知事)

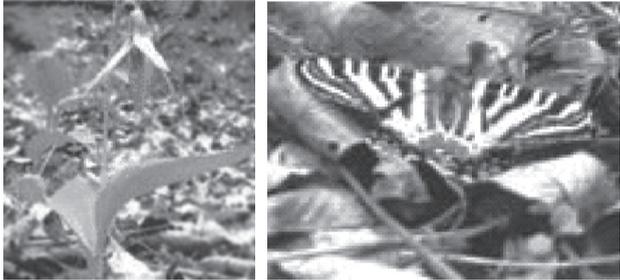
神出町の中央にそびえ立つ双嶺の雌岡山・雄岡山。その地層は、約二億年前に海底が隆起してきた、ケイソウや放散虫などが固まったチャートと砂岩からなる丹波層群。雄岡上に隣接する明石川でチャートを見ることができる。六甲山などの丹波

層群に見られる鹿の子模様の「鹿子の木」が神社の周辺に群生。
神出神社の祭神はスサノオノミコトとクシナダ姫。孫の大国主命から八百余の神々が誕生し全国に散ばったことが「神出」の由来。雄岡山との間には金棒池。弁慶が金棒を両山に差し込んで担ごうとすると金棒が折れ地面に落ち、そこが池になったという言い伝え。神社裏手の森林浴コースにある裸石神社と姫石神社。男女のご神体のお守りが社務所で販売され、隠れた人氣。かたこ会などの活動で復活し、訪れた人を楽しませるかたこゆりの可憐な花とギフチョウ。

四月一八日は神出神社の弥栄祭。巫女が演じる神楽・沸騰した釜の湯を笹でふりかけ健康を願う湯立、餅まきで弥栄を祈願。だんじりの太鼓と唄が神代の森



「神戸らしい50選に選ばれた」雌岡山 (249m) と雄岡山 (241m)



かたこ会 (老人会) とギフチョウ保存会が育てた、雌岡山のかたこゆりとギフチョウ

のだんじりや獅子舞は岩岡神社へ。江戸時代に松平侯の命で岩岡と一緒に開拓を任された須藤家に関係している由。
山の北は、老ノ口・古神・小東野・勝成・広谷・山西地区。呉錦堂の開墾・造営した小東野の田畑と淡河川疎水の水を溜める呉錦堂池、小東野の開拓民を助けた井上博士の顕彰碑も。
山の南には、東・南・田井・北・宝勢・池田・紫合(ゆうだ)地区。子供たちが自然と農業を体験する神出自然教育園。夏祭りや運動会で、神出音頭が歌い、踊り続けられる神出町公園。今年の夏祭りでは、神出音頭を歌う河内家菊水丸氏を初めてお迎えし、大勢の人たちが踊りと歌に酔った。秋には、地域の内外の人が楽しむ神出ウォーク。さあ皆さん、一緒に自然と歴史を探索しよう。



かたこゆりの浴衣で踊る神出おごじよ (左は菊水丸と神出音頭作曲の手島先生)

平成三年度 防火防災に関する 作文コンクール佳作受賞

全日本消防人共済会 兵庫県支部

朝来市立生野中学校 二年 小松 兼祥
朝来市立生野中学校 二年 小松 兼祥
「誇れる父と母」
朝来市立生野中学校 二年 小松 兼祥

僕が持つ消防団の印象は、消防団の車庫に行くと、パトロールをする程度のもので。でもそれは、全然違っていった。毎回の消防練習を行ったり、パトロールも、思っていた以上にしっかりと見回りをし、この小さな栃原の村に、何も被害が起こらないように、日ごろから、心がけていた。この話を聞き、僕は、そんな消防団の方々にとても感心させられた。
晴れの日も、雨の日も、どんなに仕事で疲れていても、お年寄りの方の安全や、区民の方々の安全や、家族の安全を第一に考えて、とても頑張っていたのだ。
そんな僕に父がこんな話をし

僕が持つ消防団の印象は、消防団の車庫に行くと、パトロールをする程度のもので。でもそれは、全然違っていった。毎回の消防練習を行ったり、パトロールも、思っていた以上にしっかりと見回りをし、この小さな栃原の村に、何も被害が起こらないように、日ごろから、心がけていた。この話を聞き、僕は、そんな消防団の方々にとても感心させられた。
晴れの日も、雨の日も、どんなに仕事で疲れていても、お年寄りの方の安全や、区民の方々の安全や、家族の安全を第一に考えて、とても頑張っていたのだ。
そんな僕に父がこんな話をし

てくれた。昨年の八月九日に大きな台風が来て、川が増水し、深夜に電話がかかってくる。父は、すぐに飛び起きて、消防団の所に行った。消防車に飛び乗り、サイレンを鳴らして、被害にあった場所へ行き、少しでも安全が保たれるようにしよう。栃原の菖蒲沢という所の橋が崩れ落ち、何ヶ所か危険なところがあつたが、ゴルフ場の上や、生野学園のある所まで、栃原の全地域を回って、深夜から、早朝まで活動していたと聞いて、僕は驚くばかりだった。何も無い時は非常時にそなえて訓練やパトロールを欠かさず行い、何かあると、夜中だつて出勤しなくてはならない消防団は、本当に大変だと思つた。
父は、今年の七月四日、操法の大会に備えて練習していた。仕事が終わると、すぐにグラウンドに行つて、消防団の人達と一緒に、操法の訓練を頑張っていた。

そして、父同様母も、婦人消防に入っていて、毎月一回「夜回り」をして、栃原の全区域を回っている。お年寄りの多い栃原地区では、このような活動で、その安全が保たれているのだ。母は仕事に家事と本当に大変だと思つた。この上、このような活動をして、すごいなと思つた。火事は家屋だけでなく、人の命まで奪つてしまう。その火事を出さないためには、地域の人たちの防火活動が大切だということを知つた。
父や母がしている事は、家族の命だけでなく、地域の人の命まで、守っている人だと思つた。父や母の活動を誇りに感じる。父や母に、どうしてこんな活動をしているのと聞くと、「栃原が好きだからね。」と答えた。僕はそんな父や母をととても誇らしく思つた。
僕も将来、消防団に入つて地域に役立つ活動をしたと思つた。

突撃取材！ 神戸市が消防団健康教室

平成三三年二月六日(日)神戸市長田消防署内の神戸市消防コミュニティセンターにて、恒例の消防団健康教室が開催されました。この教室は、平成一九年から毎年開催されており、講師は、毎度お馴染み神戸市消防局消防団係長の他谷和巳さんです。
内容は、講話と実技の二部構成になっており、男女合計約二〇名の消防団員が参加しました。講話では「運動と健康について」と題し、食事とストレスの関係や運動不足による生活習慣病、健康維持のための有酸素運動やダイエットについてなど、私たちの生活に身近な話題

について、分かりやすく話していただきました。
実技では、簡単なストレッチの後、全員で色々なレクリエーションゲームを体験しました。二人一組になったり、バレーボールを使ったりして、皆我を忘れて走り回っていました。教室終了後、兵庫消防団の大橋さんと、灘消防団の小野さんに感想を尋ねたところ、「講話は分かりやすく、丁寧に説明してもらえたし、レクリエーションは、童心にかえって楽しく運動できた。」「皆が笑顔になり、仲間づくりが最適だと思う。今後是非参加したい。次回は、屋外で活動したい。」と意欲満々でした。また、講師の他谷係長へ「い

つも優しく、心配りができる人。今日の講話も色々工夫されていて、楽しく過ごさせてもらえた。」と大絶賛していました。
この健康教室では、個々人の健康づくりだけでなく、団員同士のコミュニケーション、団員と事務局のコミュニケーションも図れたようです。このような活動が、有事の際の一致団結し



消防団健康教室

さて、今月号では一面に「ひょうご安全の日」とい、「二面には先月号でもお知らせをしました「消防団の充実強化の検討会」について、その概要を掲載しております。また、今月号も各地区より多数寄稿いただき、ありがとうございます。空気が乾燥し、火事が起こりやすくなっております。暖房等の火の気の取り扱いには十分に注意したいものです。

編集後記

立春とはいふものの、まだまだ肌寒い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。
さて、今月号では一面に「ひょうご安全の日」とい、「二面には先月号でもお知らせをしました「消防団の充実強化の検討会」について、その概要を掲載しております。また、今月号も各地区より多数寄稿いただき、ありがとうございます。空気が乾燥し、火事が起こりやすくなっております。暖房等の火の気の取り扱いには十分に注意したいものです。